

第141回 日商簿記検定試験 1級 一商業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

1. 費用・収益の見越、繰延（以下、仕訳の単位は千円）

(1) 整理仕訳

(借) 前払販売費	1,855	(貸) 販売費	1,855
(借) 前払一般管理費	1,214	(貸) 一般管理費	1,214
(借) 販売費	1,517	(貸) 未払販売費	1,517
(借) 未収受取利息	1,228	(貸) 受取利息	1,228

(2) 解答の金額

- ▼受取利息：362千円（整理前残高試算表、以下、「T/B」受取利息）+1,228千円（未収）=1,590千円
- ▼販売費：65,410千円（T/B販売費）-1,855千円（前払）+1,517千円（前払）=65,072千円
- ▼一般管理費：64,180千円（T/B一般管理費）-1,214千円（前払）=62,966千円
- ▼前払費用：1,855千円（前払販売費）+1,214千円（前払一般管理費）=3,069千円

2. 有価証券について

(1) A社社債について

(a)金利調整額

$$\{48,000 \text{ ドル (取得原価)} \times 3.9\% \text{ (実効利率)} - 50,000 \text{ ドル (額面金額)} \times 3\% \text{ (クーポン利率)}\} \times 114 \text{ 円 (期中平均相場)} \approx 42 \text{ 千円}$$

(b)換算差額

⇒外貨建の満期保有目的の債券は、外貨建金銭債権（貸付金）と同様の性質を有するため、期末に換算替えを行う。

①帳簿価額：4,848千円+42千円=4,890千円

②貸借対照表価額：{48,000ドル（取得原価）+372ドル（金利調整額）}×121円（当期末相場）
≈5,853千円

③換算差額：5,853千円-4,890千円=963千円（為替差益）

(2) 国債について

①評価差額

54,500千円（時価）-55,000千円（取得原価）=500千円（評価損）

(3) C社株式について

①実質価額

110,000千円（純資産価額）×25%（保有割合）=27,500千円

②評価損（減損）

76,000千円（取得原価）-27,500千円（実質価額）=48,500千円

(4) 整理仕訳

(借) 関連会社株式	76,000	(貸) 投資有価証券	76,000
(借) 投資有価証券	1,005	(貸) 有価証券利息	42
		(〃) 為替差損益	963
(借) その他有価証券評価差額金	500	(貸) 投資有価証券	500
(借) 金利スワップ資産	600	(貸) 繰延ヘッジ損益	600
(借) 関連会社株式評価損	48,500	(貸) 関連会社株式	48,500

(5) 解答の金額

- ▼投資有価証券：135,848千円（T/B投資有価証券）-76,000千円（関連会社）+42千円（金利調整）+963千円（換算替）-500千円（評価損）=60,353千円
- ▼関連会社株式：76,000千円-48,500千円（評価損）=27,500千円

3. 固定資産について

(1) リース資産について

(a)取得原価の決定

①リース料総額の割引現在価値：1,000千円÷1.02+1,000千円÷(1.02)²+1,000千円÷(1.02)³
+1,000千円÷(1.02)⁴+1,000千円÷(1.02)⁵+1,000千円÷(1.02)⁶≈5,601千円

②見積現金購入価額：5,760千円

③ ①<② ∴①

(b)利息及びリース債務の返済の金額

①支払利息：5,601千円×2%=112千円

②リース債務の返済：1,000千円（リース料）-112千円（支払利息）=888千円

(2) 機械装置について

(a)当期の資産除去債務の増加額

1,098千円（整理前残高試算表（以下、T/B）資産除去債務）×3%=33千円

(b)見積り変更にもなう資産除去債務の減少額

⇒除去費用のキャッシュ・フローが減少する場合には、負債計上時の割引率を適用する。
(1,200千円-900千円)÷1.03÷1.03≈283千円

(3) 減価償却について

(a)建物

200,000千円×0.9÷30年=6,000千円

(b)備品

①リース資産：5,601千円×0.333=1,865千円

②リース資産以外：

・償却率による減価償却：{24,000千円-16,878千円（T/B備品減価償却累計額）}×0.333

≈2,372千円

・保証額：24,000千円×0.09911≈2,379千円

∴保証額を下回るので改定償却率を使用する。

・改定償却率による減価償却：(24,000千円-16,878千円)×0.334（改定償却率）≈2,379千円

(c)機械装置

150,000千円÷5年+1,035千円÷5年=30,207千円

(4) 整理仕訳

(借) リース資産	5,601	(貸) リース債務	5,601
(借) 支払利息	112	(貸) 支払リース料	1,000
(〃) リース債務	888		
(借) 資産除去債務調整額	33	(貸) 資産除去債務	33
(借) 資産除去債務	283	(貸) 機械装置	283
(借) 減価償却費	40,451	(貸) 建物減価償却累計額	6,000
		(〃) 備品減価償却累計額	2,379
		(〃) 機械装置減価償却累計額	30,207
		(〃) リース資産減価償却累計額	1,865

(5) 解答の金額

- ▼支払利息：370千円（T/B支払利息）+112千円（リース）=482千円
- ▼機械装置：151,035千円（T/B機械装置）-283千円（資産除去債務の減少）=150,752千円
- ▼建物減価償却累計額：84,000千円（T/B建物減価償却累計額）+6,000千円（建物減価償却費）
=90,000千円
- ▼備品減価償却累計額：16,878千円（T/B備品減価償却累計額）+2,379千円（備品減価償却費）
=19,257千円
- ▼機械装置減価償却累計額：60,414千円（T/B機械装置減価償却累計額）
+30,207千円（リース資産減価償却費）=90,621千円
- ▼リース債務：5,601千円-888千円=4,713千円
- ▼資産除去債務：1,098千円（T/B資産除去債務）+33千円（当期調整額）
-283千円（資産除去債務の減少）=848千円

4. 社債について

(1) 金利調整額

$$294,449 \text{千円} \times 2.77\% \text{ (実効利率)} - (500,000 \text{千円} - 200,000 \text{千円 (過去の償還)}) \times 1.80\% \text{ (クーポン利率)} \approx 2,756 \text{千円}$$

※期中において、償却原価法を適用していないためT/Bの社債の金額は期首時点である。

(2) 訂正仕訳及び整理仕訳

(借) 社債	100,000	(貸) 仮払金	105,400
(〃) 社債利息	5,400		
(借) 社債利息	2,756	(貸) 社債	2,756

(3) 解答の金額

- ▼社債利息：5,400千円（クーポン）+2,756千円（金利調整）=8,156千円
- ▼社債：294,449千円（T/B社債）-100,000千円（定時償還）+2,756千円（金利調整）=197,205千円

5. 貸付金について

(1) 帳簿価額の按分

- (a)譲渡債権の時価：4,950千円（現金収入）+150千円（買戻権）-90千円（リース義務）=5,010千円
- (b)残存部分（回収業務資産）：5,000千円（貸付金の帳簿価額）×100千円/5,110千円≈98千円
- (c)消滅部分（譲渡債権）：5,000千円（貸付金の帳簿価額）×5,010千円/5,110千円≈4,902千円

(2) 売却損益の計算

$$5,010 \text{千円 (譲渡債権の時価)} - 4,902 \text{千円 (譲渡債権の帳簿価額)} = 108 \text{千円}$$

(3) 整理仕訳

(借) 未収金	4,950	(貸) 長期貸付金	5,000
(〃) 買戻権	150	(〃) リース義務	90
(〃) 回収サービス業務資産	98	(〃) 長期貸付金売却益	108

※金融資産の消滅に伴って新たに発生した金融資産・負債は、時価により計上する。

(4) 解答の金額

- ▼未収金：600千円（T/B未収金）+4,950千円（債権の譲渡）=5,550千円
- ▼長期貸付金：30,000千円（T/B長期貸付金）-5,000千円（債権の譲渡）=25,000千円

6. 商品売買について

(1) 乙商品の期末棚卸高の計算

- (a)前期の原価率=23,800千円（原価）÷35,000千円（売価）=0.68
- (b)問題文より、前期の返品期限未到来の35,000千円（売価）のうち27,000千円（売価）は原価率0.68であるが、残額8,000千円（売価）については当期仕入れた商品と同じ利益率で販売しているため、当期の原価率算定の範囲に含める。
- (c)当期の原価率の算定
 - ①原価：47,160千円（甲商品の期首）+23,800千円（乙商品の期首）-※18,360千円（乙商品の前期販売分）
+1,126,600千円（当期商品仕入高）-67,700千円（甲商品の期末）=1,111,500千円
※ 27,000千円×0.68=18,360千円
 - ②売価：862,000千円（甲商品）×1.14%+588,070千円（乙商品）-27,000千円（乙商品の前期販売分）
=1,543,750千円
 - ③原価率：①÷②=0.72
 - (d)期末棚卸高：34,500千円（返品期限未到来）×0.72=24,840千円

(2) 甲商品の評価

- (a)棚卸減耗損：67,700千円（帳簿棚卸高）-66,600千円（実地棚卸高）=1,100千円
- (b)商品評価損：66,600千円（実地棚卸高）-64,800千円（正味売却価額）=1,800千円

(3) 整理仕訳

(借) 売上（乙商品）	34,500	(貸) 売掛金	34,500
(借) 仕入	70,960	(貸) 繰越商品（甲商品）	47,160
		(〃) 繰越商品（乙商品）	23,800
(借) 繰越商品（甲商品）	67,700	(貸) 仕入	92,540
(〃) 繰越商品（乙商品）	24,840		
(借) 棚卸減耗損	1,100	(貸) 繰越商品（甲商品）	2,900
(〃) 商品評価損	1,800		

(4) 解答の金額

- ▼売上：862,000千円（T/B売上（甲商品））+588,070千円（T/B売上（乙商品））
-34,500千円（乙商品返品期限未到来）=1,415,570千円
- ▼仕入：1,126,600千円（T/B仕入）+70,960千円（期首）-92,540千円（期末）=1,105,020千円
- ▼売掛金：38,300千円（T/B売掛金）-34,500千円（乙商品期限未到来）=3,800千円
- ▼繰越商品：67,700千円（甲商品）+24,840千円（乙商品）-1,100千円（棚卸減耗損）
-1,800千円（商品評価損）=89,640千円

7. 貸倒引当金について

(1) 売上債権

- (a)当期末の貸倒引当金：3,800千円（期末残高の売掛金）×2%=76千円
- (b)当期の戻入：76千円-120千円（T/B貸倒引当金）=44千円

(2) 長期貸付金

$$\text{当期の繰入額} : 25,000 \text{千円} - (19,000 \text{千円 (担保物件の処分見込額)} + 5,800 \text{千円 (保証による回収見込額)}) = 200 \text{千円}$$

(3) 整理仕訳

(借) 貸倒引当金	44	(貸) 貸倒引当金戻入	44
(借) 貸倒引当金繰入	200	(貸) 貸倒引当金	200

(4) 解答の金額

- ▼貸倒引当金：120千円（T/B貸倒引当金）-44千円（戻入）+200千円（繰入）=276千円